

小平図書館友の会 会報 27 号



発行日：2011年11月15日

発行者：小平図書館友の会会長 氏家 和正

<http://www4.plala.or.jp/Nori/>

目次

東日本大震災のこと(奥村公子) 1 / 第14回総会報告 第13回チャリティ古本市報告 2 /
図書館との懇談会「伝える言葉が大切」 3 / 図書館を使いこなす 第3弾(齋藤淑子) 4
～6 / 夜のおはなし会レポート(名取公子) 6 / YAを楽しむ会(平井吉子) 図書館に
ついて学ぶ会(加藤裕史) 読書サークル・小平(島 正夫) 7 / 障がい者サービス学習会
(名取公子) 声に出して本を読む会(雑崎亮平) 図書館協議会報告(伊藤規子) 8

.....

東日本大震災のこと

奥村 公子

私の実家は仙台市内の青葉城址に近い高台にあり、二階のベランダからは天気がよいと遠くに青い太平洋と四季の蔵王を見ることができます。しかし震災の後、海の方は手前が茶色く広がっています。これが津波の跡なのかと、そして建物が流されてただ広く茶色くなってしまった平野は無残だと感じました。岩手、宮城、福島、この3県は私のふるさとです。私が生まれた時両親は仙台市に住んでいましたが、母の実家の福島市が私の出生地です。そして父の出身地の盛岡市が私の本籍地になりました。父の転勤で秋田市や鶴岡市、白石市にも住みましたが、仙台市が一番長く中学以降は父は単身赴任でした。そういうわけで岩手、宮城、福島がこんなひどい災害に見舞われるなどということは私にとって居ても立ってもいられない思いです。

最近、YAの会で後藤竜二の「故郷」を読みま

した。北海道の農業を営む一家が台風や新しい農業への挑戦がうまく行かずについに離農の決心をする話です。場所は北海道ですが登場する人物が皆ひたむきで純朴で共感しました。特に女の人たちはつらくても明るいまげないのです。東北の土地で生きている人たちはこういう気質が遺伝子の中にあるように思います。嘆きながらも負けない、歯を食いしばって前を向く人たちが早く日常を取り戻せるように応援していきたいと考えます。

東日本大震災で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興をお祈りいたします。

小平図書館友の会



第14回総会報告

10月2日(日)、第14回の定期総会が開かれました。9月末の会員数は149人。委任状85通、出席23人。松原図書館長にご出席いただき、島さんの議長のもと、すべての議案が拍手で承認されました。年に一度の総会ということで、大勢の出席を期待しましたが、行事の多い季節とあって、すこしさびしかったような気がします。

総会終了後は、図書館館外奉仕室へ移って、懇親会。いつもの顔のほかにちらほらと新しい方もみえ、館長も残ってくださり、なごやかな楽しいひとときでした。多方面で活躍の方も多く、日ごろの図書館利用法やら、今後の活動紹介などあったという間の1時間半でした。新しい年度も盛りだくさんの活動となりそうです。

小平図書館友の会は、5つの学習会をはじめ、講演会、古本市、文学散歩などいろいろな楽しい企画があります。本に関係した新しいグループを始めることもできます。会員のみなさんのよりいっそうの参加、新しい会員の入会を期待しています。

<議案書・活動報告より>

広報：会報25号、26号発行。交流紙「らいぶらりーふれんず・こだいら」10号分発行。

会員交流会：年2回。

5つの学習会：毎月～隔月に活動。障がい者サービス交流会、声に出して本を読む会発表会なども実施。

講演会：「古地図から見えるもの」 芳賀啓さん、「図書館を使いこなす第3弾」 中央図書館館長補佐・調査係長 齋藤淑子さん。

第13回チャリティ古本市：7月実施。

その他：利用者懇談会、「本が泣いています！」(汚損・破損本)の展示など。

新入会11人、退会6人

第13回チャリティ古本市報告

チャリティ古本市は、皆様から読み終えた本を寄付していただきそれらを安価で販売し、毎年純利益を小平市立図書館へ備品の形で寄贈をしています。今年はそれに加え、日本図書館協会を通して東日本大震災の被災地の図書館に寄付をしました。又同時に、集本した絵本、児童書の一部を、小平青年会議所経由で全国学校図書館協議会を通して被災地の学校図書館に寄贈しました。

古本市は会員有志の「古本市世話人会」が企画、運営をしています。今回は初めて7月9日、10日と夏の開催になり、気温や集本など心配でしたが、集本は3万冊を超えました。本に埋もれながら会員や有志の方の協力を得て暑さと体力と闘いつつ何とか設営が出来ました。当日は暑い中たくさんの方が来場して下さり盛況のうちに終了しました。

売上金額、寄贈品等以下のとおりです。

- ・集本数 30,053冊 (昨年分含)
- ・販売冊数 7,386冊 (2日間)
- ・売上金額 296,360円 (2日間)
- ・図書館への寄付分 154,126円

(売上金額－経費－被災地寄付＋昨年度残金)

・寄贈品

サインスタンド (中央図書館)

ブックトラック (小川西町図書館)

玄関マット (喜平図書館)

・日本図書館協会の東日本大震災義援金に
寄付 100,000円

残本は、数千冊を来年分としてストックし、残りは町田の「社会福祉法人・共働学舎」に寄付しました。

反省会では、「夏は厳しい」、「本が並びきれず重なってしまい見づらかった」などの意見が出ました。次回に向けて来場者がより本を選びやすいよう工夫、検討します。本を寄付、購入して下さった皆様ご協力ありがとうございました。

お知らせ!

第14回チャリティ古本市 2012年3月24日(土)、25日(日)

集本日 3月22日(木)、23日(金) 2日間 小平市中央公民館ギャラリー

図書館との懇談会から

「伝える言葉が大切」

9月29日木曜日、さわやかな秋晴れの午後、小平市中央図書館の視聴覚室で、図書館と友の会会員の懇談会が行われました。図書館からは松原館長はじめ6名の職員の方々が、友の会からは8名が参加しました。司会は友の会の氏家会長が務めました。まず松原館長から現在の小平市図書館の概要を統計数値を交えての説明があり、つぎに事前に友の会会員より出された質問に対して答えていただく形で進められました。

私たち友の会がこういった話し合いの場を持ちたい理由として、図書館を利用する立場としてあるいは支援する立場として図書館を少しでも知りたい、分かり合いたいという気持ちがあります。そしてこの場所を単なる苦情処理の場とせず、活発な情報交換をすることにより図書館のこれからの運営に生かしてもらいたいと願うものです。

話し合いの中らいくつかを紹介いたします。

拡大写本の会「ひまわり」は長年障がいのある子どもたちのために拡大写本や布の遊具を制作し図書館に寄贈し続けてきました。しかしその評価を耳にする機会はなく、また広く市民に知らせる広報はどこにも見当たりません。図書館事業報告内の「障がい者サービス」や「ボランティアの参加促進」にも取り上げられていません。「ひまわり」の会員たちが熱意を失いかねない状況を会員のひとり名取さんが訴えました。一方で図書館側は「ひまわり」の活動は前から大いに評価し感謝し、それゆえ子どもの読書活動優秀実践団体に推薦もしたとの回答でした。「ひまわり」に限らず図書館にはたくさんのボランティアが関わっているのでこれからも連携を図り関係を深めたいとの説明もありました。しかし広報という点では足りない部分もあったと認め、以後配慮していきますとのことでした。また「ひまわり」も時折図書館の障がい者サービス担当者を交えて利用状況などの情報を得ることも大切ではないかとの意見も出さ

れました。このようにお互いの目指すところや気持ちがおなじでも言葉や具体的な行動がないとすれ違いが生じるものです。そういったズレに気が付くこともこの懇談会を持った意味があります。

小平市は8館（中央図書館と地区館）で資料の分担収集をしています。文庫本の収集分担表は各館カウンターに置いてある利用案内やHPに出ています。しかし利用案内を見ることは少なく、またパソコンを操らなければ知ることはできません。そこで文庫棚の脇に分担表を貼ればよくわかるのではないかと提案があり、図書館の方も早速つくってみたいということになりました。ひとりの利用者のちょっとした疑問を解決することで多くの利用者が使いやすくなります。松原館長が最初に述べた使いやすい図書館・役に立つ図書館をめざすことにつながります。

図書館の「大人のためのおはなし会」はふだん子どもたちが聴いている「おはなし会」を体験してもらうための企画です。これに対応して「大人のために大人の本を読むおはなし会」があってもよいのではないかという質問がありました。これに対して図書館側は、現状では新しい企画は難しいが友の会の「声に出して本を読む会」がこの視聴覚室を使って朗読会を催すならば応援しますとうれしい提案をいただきました。「声に出して本を読む会」の雑崎さんは、毎回発表会の会場選びに苦慮しているので会員とも相談しながらいつか実現したいと述べました。

懇談会というひとつの場を設けることで、修正や改善や提案をお互いを得ることができました。今後も小平市図書館の実情をふまえて支援し、共に歩みたいと願う友の会です。



図書館友の会 8月6日の講演会より 図書館を使いこなす 第3弾 あなたの『調べたい』をサポートします！

小平市中央図書館 齋藤淑子

今回、図書館友の会主催による「図書館で調べる」シリーズの第3回目で案内役を務めさせていただきました。図書館では、職員向けのレファレンス研修を年3回実施していますが、そこで取り上げたこともある事例も今回ご紹介しました。

前回は、皆様に情報をたくさん提供しようとするあまり、早足になってしまいわかりにくかったという反省を踏まえて、4つの事例をじっくりお伝えすることにしました。ここに再現してみますので、当日参加出来なかった方もご自宅のパソコンで「小平市立図書館のホームページ」から「蔵書検索」を開いて、実際に取り組んでみてください。応用編も自分で開拓すると検索がきつと面白くなるはずです。本探しが楽しくなると思います。事例4は参考資料の紹介をしています。

事例 1

ドストエフスキーの短篇「弱い心」が、どの全集に入っているのかわからない。小平市立図書館のホームページの「蔵書検索・予約」で検索しても出てこないのですが……。

1：小平市立図書館のホームページ

<http://library.kodaira.ed.jp/>

まず図書館のホームページを開いて、**蔵書検索・予約**を選んでください。

2：蔵書検索

ここでは、タイトルの欄に「ヨワイココロ」と入力してみましょう。結果は残念ながら「**該当データが見つかりませんでした。**」と表示されます。

①ちなみに「弱い心」と入力しなかったのは、「弱いころ」あるいは「よわい心」の可能性も考えられるからです。いずれ図書館の蔵書検索も、『もしかしたら「弱い心」ではありませんか?』と確認メッセージが出る時代が来ると思いますが。今は、まだそのような機能がないので用心してカ

ナで入れます。

②著者名を入れなかったのは、本によって著者名の表記が統一されていないためです。というのは小平の図書館は、全国でも早い時期にコンピュータを導入した結果、書誌データ(=書名・シリーズ名・著者名・発行所・発行年などのデータ)を、図書館の職員が手作業で入力しており、タイトルページどおりに入力していたからです。たとえば「ドストエフスキ」と入力してみると検索結果は「ドストエフスキ」「ドストエーフスキ」「ドストエフスキー」など色々な表記になっています。(※図書館では、継続的にデータ訂正を行っています。)

では、どうしたらよいでしょう？

グーグルで「ドストエフスキー 弱い心」と入力すると、たちどころに約22万件ヒットしました。そのうちの「ドストエーフスキ全集〈第2巻〉ステパンチコヴォ村とその住人 弱い心 白夜 他(1970年)[古書]」という情報が近いようですが…。そこで、短篇ということなので、全集などの内容がわかる都立図書館の蔵書検索をして、シリーズを特定し、小平市にもあるかどうか改めて検索するという“方針”をたてて臨みます。

3：図書館ホームページ上部の**リンク集**をクリックし、次画面のリンク集をさらにクリックする。

4：東京都立図書館に進み、**蔵書検索**を選んでください。次に**資料検索(詳細)**を選びます。

そこで「収録作品名」に「弱い心」、著者名に「ドストエフスキ」を入力すると5件ヒットしました。新潮社の「ドストエフスキー全集 2巻(1979.8)」、河出書房新社の「ドストエフスキー全集 2巻(1979)」に入っていることが分かります。

そこで、この二つの全集を小平市が所蔵しているかどうか改めて蔵書検索してみます。

5：**蔵書検索** ⇒ 小平市立図書館に戻って検索してみましょう。はじめに、タイトルに「ドストエフスキー全集」、出版社に「**新潮社**」を入力します。28件ヒットします(全27巻・別巻1)。そこで2巻をクリックすると上宿図書館と大沼図書館の「988(ロシア文学)」の全集の書架にあること

がわかります。出版社を「河出書房新社」に、タイトルを「ドストエフスキ全集」にしてみると、19件ヒットします。そのうちの第2巻を選ぶと小平図書館で所蔵していることがわかります。

なお、中央図書館参考室には、「世界文学個人全集・内容総覧」上・下（日外アソシエーツ）があります。全集の各巻にどんな作品が収録されているかが調べられます。参考室の分類 R903 に排架されています。

事例 2

「たぬきが陣笠を被りながら毎日苦しい選挙戦なのはあわれ」という長い名前の本があるらしい。探して読んでみたい。小平市立図書館のホームページの「蔵書検索・予約」で検索しても出てこないが。

1: 小平市立図書館のホームページ

まず、図書館のホームページを開いてください。

蔵書検索・予約を選んでください。

2: 蔵書検索

長いタイトルのときは要注意です。この通り入力してみます。残念ながら、「該当データが見つかりませんでした。」と表示されます。

3: では、全て入力せずに、名詞の読みをカタカナあるいはひらがなで入れてみましょう。漢字で「陣笠」と入力しないのは、やはりタイトルが誤っている可能性が考えられるからです。

4: 検索をちょっと工夫して、タイトルを分けて入れてみます。**蔵書検索**画面の2行目の「著者名」の右にある「V」をプルダウンして「タイトル」を選び、1行目に「たぬき」、2行目に「じんがさ」と入力しました。すると、「永田町一丁目の国会議員は陣ガサをかぶったタヌキといわれる毎日が選挙戦に苦しむあわれな選良たち」というもつと長いタイトルの本ということがわかりました。

事例 3

昭和42年4月11日前後の新聞が見たい。小平市立図書館のホームページでは「新聞」の検索は出来ませんか？

1: 小平市立図書館のホームページ

古い新聞を探すには、新聞紙を縮小した縮刷版

を探します。

2: **蔵書検索・予約**を開きます。

蔵書検索でタイトルに「新聞」、2行目の「著者名」をプルダウンして「タイトル」を選び「縮刷版」と入れます。

次に、検索画面の下部にある**絞り込み項目**の「出版年」の欄に昭和42年を西暦1967にして「1967～1967」と入れます。

ところが、検索結果をみると、朝日新聞の縮刷版は出てくるのですが、1967年の縮刷版は、3月と4月がありません。開館した時にバックナンバーは購入したり、寄贈していただいたものを整理したりしたのですが、手に入らないものもありました。そこで**蔵書検索**画面に戻り、右側にある**新聞目録**のところを見てください。

3: 新聞目録

画面を下にスクロールするか「新聞マイクロフィルム」「新聞縮刷版」「新聞記事データベース」を選びます。

⇒**新聞マイクロフィルム**を見ると中央図書館には昭和2年(1927)から昭和61年(1986)の朝日新聞のマイクロフィルムがあることがわかります。(コピーは1枚10円です)

⇒**新聞縮刷版**には全館の縮刷版の一覧表があります。

⇒**新聞記事データベース**を見ると「朝日新聞新聞記事データベース(聞蔵IIビジュアル)」があり、明治12年(1879年)から見ることができます。(プリントアウトはA4のプレビュー1枚10円です)なおデータベースを利用できるのは小平市立図書館の登録者のみです。

昭和42年4月11日前後の新聞はマイクロフィルムか商用データベースで調べることができました。

事例 4

小平の古い地図ありますか。活断層の話を知りたい。小平市はどうなのかな。

こちらの資料は、図書館ホームページで検索するのは、難しいので、資料の紹介をします。

1 明治前期・昭和前期 東京都市地図 2

東京北部 柏書房 1996

明治前期・昭和前期 東京都市地図 4

東京西部 柏書房 1996

◎この地図帳は、現行の1万分の1地形図にあわせて、小川村（明治15年）と田無町（明治13年）の迅速測図、昭和10年代、昭和20年代から30年代の初めの地図などを編集したものです。これをみると時代ごとの地域の変遷をたどることができます。また、現行2万5千分の1地形図に対応する地図も掲載されています。

「4 東京西部 (p.74~79 小平)」には小平市の西部を、3枚の地図によってたどることができます。

「2 東京北部 (p.178~185 田無・小金井)」には小平市の東部の変遷を、たどることができます。こちらには明治30年代終わりの地図もあります。

2 小平町誌 【折込地図】 小平町 1959

『小平町誌』の付録として次の4枚があります。

①小平町地理図（昭和32年）、②小平町土地利用図（昭和31年）、③迅速測図 復刻 「小川村」（明治15年）、④小川村地割図（元禄頃）

3 貳萬分之一迅速測図（覆刻） 大日本帝国参謀本部陸軍部測量局 15枚

◎15枚の内容は「小川村 田無町 府中駅 布田駅 登戸村 所沢村 板橋駅 内藤新宿 大和田町 小野路村 原町田村 扇町屋村 拝島村 八王子駅 橋本村」です。小平が載っているのは2枚あり、小川村は明治15年 田無町は明治13年当時のものです。

4 東京1万分1地形図集成 明治・大正・昭和 柏書房 1983

5 明治前期関東平野地誌図集成 1880(明治13)年~1886(明治19)年 柏書房 1989

6 多摩地形図 1942(昭和17)~44(同19)年 清水靖夫編 之潮 2004

【活断層】

7 都市圏活断層図 4 青梅 1:25000 国土地理院 1996 *立川断層の記載あり

【土質】

8 小平市内土質柱状図集 小平市上下水道部下 水工事課編 小平市 1991

....................

中央図書館「よるのおはなし会」レポート

レポーター 名取公子

8月25日(木)夕方6時から子ども(4歳~小学生)対象の「よるのおはなし会」が中央図書館視聴覚室で開かれた。

これは2年前、花小金井と大沼の図書館が合同で始めたのを皮切りに、毎年2、3館で行っている。昼間のおはなし会とは一味ちがうちよっと恐いおはなしへの期待と、夜の図書館に行ける楽しさが相まって今や夏休みの一大イベントのようだ。

5時50分、児童コーナーの奥から図書館員を先頭に大人に手をひかれた子ども達が3階視聴覚室へと上っていく。その数ざっと120名。室内は一つ目小僧の折り紙で飾られ、前方フロアの絨毯に子ども達が座り、後方階段いすには大人が腰を下ろした。

皆が揃う間、手あそび歌「キャベツの中から」が始まる。いつとき楽しんだところで、いよいよ始まり。照明が薄暗くなり、“皆さん、これはなんだかわかりますか？”図書館員の問いかけに“おはなしのろうそく!!”“おはなしのろうそくに灯がついたらおはなしが始まります。そしたらお口はチャックですよ”

「恐いものなしのジョバンニン」“昔、恐いものが何も無いので恐いものなしのジョバンニンとよばれる若者がいました…” 勇気あるジョバンニンの活躍に聞き入った。次に、大型紙芝居「こぞっこまだが」が威勢の良い拍子木の音とともに始まった。こぞっこがおにばから逃れほっとしたところで、おまけのおはなし。照明がスーと暗くなり“くらーいくらーい森の中に、くらーいくらーい家があって・・・”

おばけがでたあ!! “キャー!!”

そしておはなしのろうそくに願いを託し、お誕生月のお子さんにより灯は消された。

夏の夜にふさわしいちよっとこわーいおはなし会。帰りには一つ目小僧の折り紙つきのプログラムをお土産に、興奮して帰る子ども達が印象的だった。

学習会の活動から



YA を楽しむ会

まとめの冊子づくりをめざして

平井 吉子

この会は、2006年8月から始まって今年で6年目になります。月2冊のペースで読んでいますが、今まで読んだ本は、なんと113冊になりました。私は、途中参加ですが、それでもかなりの冊数です。これを機会に、特に心に残ったものをまとめてみましょうと言う声があがり、手始めに一人5冊づつ挙げてみました。あれも良かったこれも良かったと、たちまちリストにはたくさんの印が付きましました。絞り込むのは大変。次第に、「ファンタジーは苦手」いや「ファンタジーこそおもしろい」とか「サトクリフの『イルカの家』は、良かったけど、他はあまり・・・」と誰かが言う「えっ！サトクリフは好きだけど『イルカの家』だけはちょっと違った」などなど正反対の感想も飛び交います。「何故？どうして感性ってこんなにちがうの？感性の違いは、何処で形成されるのかしらね」と難しい疑問も出されます。時には「昔、おっかさんがね・・・」なんて、思い出話にも花が咲きます。「あの世でもやってそう」と誰かが言い、大笑いしながら、あっちに行ったりこっちに行ったりして楽しんでいます。笑っているうちに心がほかほかしてきます。本を介して心が開かれる気がします。時間をかけて、ゆっくりまとめてみましょうということですが、ハードルは高そうです。どうなることでしょう。出来上がりが楽しみです。

5月から10月までに取り上げた本

- 5月 『青いイルカの島』スコット・オデル著 理論社
『海の島―ステフィとネッリの物語』
アニカ・トール著 新宿書房
- 6月 『哲夫の春休み』 齊藤淳夫著 岩波書店
『北極星をめざして』
キャサリン・バターソン著 偕成社
- 7月 『見習い物語』 レオン・ガーフィールド著 福武書店
『小川は川へ、川は海へ』
スコット・オデル著 小峰書店
- 8月 『キリエル』 ジェンキンス著 あかね書房
『故郷』 後藤竜二著 偕成社
- 9月 『風をつむぐ少年』
ポール・フライシュマン著 あすなる書房

10月 『ハティのはてしない空』
カービー・ラーソン著 鈴木出版

* YAとはヤングアダルトブックスの略です

図書館について学ぶ会

加藤 裕史

図書館での課題解決型サービスの重要性

課題解決型サービスについて学習しています。特に、ビジネス支援サービスについて今は重点的にやっています。他の図書館を見学したり話を聞くと、小平市立図書館でもビジネス支援サービスをやりたいと思います。花小金井図書館でやっていますが、やはり中央図書館でコーナーを作り市の産業振興課・商工会議所等と連携してやりたいです。今の時代は、図書館から情報提供を何でも（ビジネス支援・子育て支援等）しないと、図書館は生き残れないのです。私たちも、もっと勉強していき図書館に対して提案していきたいです。関心がある方は、是非ご参加下さい。

読書サークル・小平

島 正夫

10月16日第11回の読書会が開かれました。今日のテーマは「料理」なので、皆さん賑やかに始まりました。池波正太郎の鬼平が活躍したころには白菜がまだ存在しなかったこと、内田百閒は戦後始めて河豚を食べたことなどが披露されました。また高校時代の愛読書『男のウンチク学』や『男子七十にして厨房に立つ』が紹介されて男の腕前が必要とされる時代を身にしみて感じさせられました。

女性陣からは「手間をかけ、心を込めた料理」の佐藤初女さんの本などが紹介された。司会の大森さんは社会的にみた食物文化の変遷を説かれた。家族が崩壊するとともに食事も破滅し、お正月が無視される一方、クリスマスが豪華に暴走する時代になってきた、食の二分化（飽食と孤食）が進行し甚だ危機的な状態にあることが指摘された。

この会はなにしろ大森さんの広汎な知識と奥深い知性を専ら拝聴する形で続けられてきています。今年は

3月の大震災のため中止や延期があって少しノンビリムードでしたが、今回は来月20日に部屋を確保して、締めくくることがとなりました。課題本は

半藤一利・加藤陽子著『昭和史裁判』文藝春秋社

昭和史の大家2人が松岡洋右、近衛文麿、木戸孝一、昭和天皇の開戦責任を問うといった内容で太平洋戦争開戦70年目の今年、ひもとくにふさわしい一冊です。

新しい人々を歓迎します、たとえ本は読まずともこの和やかなサロンの空気を味わって下さい、おすすめします。

障がい者サービス学習会

名取 公子

図書館の障がい者サービスを進めるために

図書館では「対面朗読サービス」を本格的に開始するにあたり、10月から東京都の研修に2名の図書館員を派遣することになった。積極的な取り組みを喜んでいる。これを機に、障がい者が楽に、楽しく図書館利用ができる環境を整えてもらいたい。

さらに「ハンデキャップサービスごあんない」(H22, 12 小平市図書館発行) 配布の徹底と、福祉関係部局との連携により、障がい者の図書館利用を促し、また福祉ボランティアとの協働を進めることにより、きめ細かいサービスをお願いしたい。

声に出して本を読む会

雑崎 亮平

ことしを締めくくる挑戦

11月18日(金)から20日(日)の3日間、シラヤアートスペース(小平駅南口)で、今年を締めくくる発表会を催します。今年は何よりも、3月11日の東日本大震災以降、被災された方々への思いとともに、私たちは深刻な課題を抱えました。

“文化活動”も、人間の知的欲求を具現し昂める日常的な取組み、と認識しているものの、多分に「独りよがり」と映る局面があり、継続することは大変です。まして、社会的激変状況下では尚更です。私ごと(筆者)ではありますが、発足7年を顧み、「よくぞ」が率直な所感です。ただ、どれだけ、聴いていただく方に、

その「気持ち」を伝えられたか、毎回の反省です。

ご指導いただく内山恵司さんが、常々、「読解力と発表技術を高める以外に、読む人の『感性』を大切にしたい」といっておられることは、何よりの励みです。

4月末の「ことばの音楽会」を聴かれた風間さん(会員)が「『ことば』が、人間の意思を伝える大切なアイテムであり、歴史的に見ても人類の知恵が凝縮しているものを、普段、何となく使っていることも気付かせてもらった」のご感想を、大切にしていきたいと思えます。

読み手からもひと言。矢部幸子 入会して何度目の発表会? 指折り数えて早や5回。素晴らしい指導者に恵まれながら、飛躍的進歩はないけれど、毎回新しい自分を表現できれば。聞いてくださる方が、「おやっ!」と身を乗り出す、あるいは、意外性に「ふふっ」と、笑ってくれる面白さを伝える、今回も挑戦です。

富岡いづみ 私の読む「外科室」(泉鏡花)、味わい深く、流麗な文体、男女の純粋な恋が生き生きと描かれています。しっかりお伝えしたいと。お楽しみに。

第5回ことばの玉手箱 古今の名作に挑戦

11月18日(金)~20日(日) 開場12時30分 開演13時
シラヤアートスペース(西武新宿線小平駅南口徒歩2分)

図書館協議会報告

図書館協議会委員 伊藤 規子

小平市の図書館協議会は、年間6回。隔月に行われます。ほかの自治体と比べても多いほうではないでしょうか。委員は、現在12人。学校教育の関係者2人、家庭教育の向上に資する活動を行う者1人、学識経験のあるもの5人、公募委員4人という構成です。任期は2年。今年度から新しい委員が増えました。新しい方が増えると、新しい質問や提案が出てきて、活発で生活に密着した話し合いとなり、よいものだなと思います。昨年度は、東日本大震災が起り、図書館も休館となり、利用者数が減ったという統計がでています。

今期の図書協研究テーマは、電子図書館。未知の課題で、猛勉強です。

